

アジアの至宝が奏でる“極み”

チョン・キョンファ

ヴァイオリン・リサイタル2015

Kyung-Wha Chung violin recital 2015

ベートーヴェン・プロ

Beethoven Program

ソナタ 第5番 へ長調 Op.24 「春」

Sonata for Violin and Piano No. 5 in F major Op. 24 "Spring"

ソナタ 第7番 ハ短調 Op.30-2

Sonata for Violin and Piano No. 7 in C minor Op. 30-2

ソナタ 第9番 イ長調 Op.47 「クロイツェル」

Sonata for Violin and Piano No. 9 in A major Op. 47 "Kreutzer"



ピアノ:ケヴィン・ケナー

Piano: Kevin Kenner



Kyung-Wha Chung

2015年4月26日(日)
14:00開演(13:30開場) サントリーホール

一般発売:2014年12月20日(土)

S席 ¥12,000/A席 ¥10,000/B席 ¥8,000/C席 ¥5,000/P席 ¥3,000(全席指定・税込)

お申込み ●キョードー東京:0570-550-799(オペレーター/平日11:00~18:00、土日祝10:00~18:00)

●ローソンチケット:0570-000-407(オペレーター/10:00~20:00) 0570-084-003(Lコード 34403:自動音声対応24時間) <http://l-tike.com/>(PCのみ座席指定可能)

●サントリーホールチケットセンター:0570-55-0017 <http://Suntory.jp/HALL/> ●チケットぴあ:0570-02-9999(Pコード 248-837)

●東京文化会館チケットサービス:03-5685-0650 ●イープラス:<http://eplus.jp>

お問い合わせ キョードー東京 0570-550-799

※小学校入学前のお子様の同伴、入場はできません。 ※やむをえない事情により出演者、曲目等が変更となる場合がございます。予めご承知ください。

主催:プリマヴェーラ・アーツ 協力:キング・インターナショナル/キョードークラシックス

primavera

チョン・キョンファ [ヴァイオリン] Kyung-Wha Chung : Violin

当代屈指の演奏家として世界中にその名を馳せているヴァイオリニスト、チョン・キョンファは、豊かな感性と完璧なテクニックをもって、素晴らしい演奏を聴かせている。

音楽を愛する家庭に生まれ育ったキョンファは、ニューヨークのジュリアード音楽学校で巨匠イヴァン・ガラミアンに師事、また後にヨーロッパではヨゼフ・シゲティの薫陶を受けた。

1967年、エドガー・レヴェントリット国際コンクールで第1位となり名声を高める。その後1970年、アンドレ・プレヴィン指揮ロンドン交響楽団との共演でヨーロッパデビュー。アンドレ・プレヴィン、ゲオルグ・ショルティ、クラウス・テンシュテット、リッカルド・ムーティ、バルナート・ハイティンク、ロリン・マゼール、ダニエル・バレンボイム、クラウディオ・アバド等の指揮のもと、世界各地で一流のオーケストラの演奏会に登場している。リサイタルでは、ピアニストのラドゥ・ルプー、クリスチャン・ツィメルマン、ペーター・フランクル等と共演、弟で指揮者兼ピアニストのチョン・ミョンフン、姉でチェリストのチョン・ミョンファとはチョン・トリオを結成し、演奏会やレコーディング、麻薬撲滅の親善大使として活動した。

韓国政府より文化勲章を授与、1995年には「アジア・ウィーク」が選んだ“偉大なアジアの20人”に唯一クラシック音楽の演奏家として、またイギリスのサンデー・タイムズでは、“最近20年間で最も偉大な器楽奏者”に選ばれている。

チョン・キョンファは、1988年よりEMIと専属契約を結び、他にもデッカ、RCA、ドイツ・グラモフォン (DG) 等と30枚ほどをリリースしたが、その中で1989年にクリスチャン・ツィメルマンと録音したR.シュトラウスとレスピーギのヴァイオリン・ソナタ (DG)、1994年にサイモン・ラトルの指揮で録音したバルトークのヴァイオリン協奏曲第2番とラプソディー (EMI) は、グラモフォン・アワードを受賞した。

ヴァイオリンの巨匠として、高度な技術と力強く熱い芸術性、繊細な表現力を兼ね備えたキョンファは、日々にゆめめ努力を惜しまず今日に至るが、ロスアンジェルス・フィルハーモニックとの共演や2004年8月の日本と韓国でのチョン・トリオ公演を大成功させた後、2005年9月のワレリー・ゲルギエフ指揮キーロフ劇場管弦楽団の韓国公演を指の故障で降板して以来、演奏会から遠ざかっていたが、2011年12月、6年間のブランクを経て演奏活動を再開。“She is Back!”と銘打ったその素晴らしいステージに、満員の観客は拍手喝采であった。

2013年6月、チョン・キョンファはリサイタル公演を1998年以来15年ぶりに日本で行った。

その際に来日記念盤として1998年の公演中、サントリーホール (4月26日、28日) で収録された2夜のライブ演奏がキング・インターナショナルより、リリースされた。(「サントリーホールライブ第1夜 KKC-4009/10 (2枚組)」「サントリーホールライブ第2夜 KKC-4011/12 (2枚組)」。2014年は中国への再訪のほか久々のイギリス公演も行う。

毎夏、韓国の江原道で開催される“Great Mountains International Music Festival”の芸術監督としても活躍している。

Profile

ケヴィン・ケナー [ピアノ] Kevin Kenner : piano

1990年、ケヴィン・ケナーは、ショパン国際ピアノコンクール最高位 (同時に聴衆賞、ポロネーズ賞)、国際テレンス・ジャッド賞、チャイコフスキー国際コンクール銅賞 (同時にロシア作品最優秀演奏賞) の3つ受賞により、世界に認められる事となる。他にも1989年のヴァン・クライバーン、1988年のジーナ・パッカウアーの両コンクールにおいても、輝かしい成績を残している。

カリフォルニア南部生まれ。クシシュトフ・ブジュザ、ルドヴィク・ステファンスキの元で研鑽をつみ、1980年のショパン国際ピアノコンクールでは、最年少出演者であり、審査員特別賞を授与された。その後、ビーボディ音楽院にてレオン・フライシャーに5年間師事、ヨーロッパに渡りハノーヴァーにてカール・ハイント・ケマリンクに師事しヨーロッパに移住する。現在はクラクフとロンドンに住居を持ち、ロイヤル・カレッジにて教鞭を執っている。

ケナーは、ハレ管、BBC響、ベルリン響、ワルシャワ・フィル、チェコ・フィル、ベルギー放送フィル、NHK交響楽団等の有名なオーケストラ、また米国ではサンフランシスコ、サンディエゴ、ソルトレイクシティ、カンザス、ニュージャージー、ローチェスター、ボルチモア、セント・ポール他多数の主要オーケストラと共演。またチャールズ・グローヴズ、アンドリュウ・デイヴィス、ハンス・フォンク、スタニスワフ・スクロヴァチェフスキ、イェジー・マクシムク、カジミエシュ・コルト、イルジー・ピエロフラーヴェク、アントニ・ヴィット等、著名な指揮者と共演している。

ベルチャ、東京、エンデリオン、フォークラー、パノハ等の室内楽団との共演も多く、ピアッツォフォルテ・アンサンブルとはピアノ、ショパン、バッハの作品を特別に編曲し、ツアーと録音を行った。ケナーは、Ensemble XIXの創設者・ディレクターでもあり、19世紀の楽器を用いてショパンの作品を演奏している。また欧米、アジア各国の主要コンクールの審査員としても招かれている。

ケナーは録音も多く、ポーランドの室内楽部門で最優秀賞 (フレデリック賞) を授与、また古楽器の演奏家として、1848年のブレイエルを用いて国立ショパン研究所のレーベルで録音したショパンのソロ・ピアノ作品集は、フランスのディアパソン誌で5つ星を獲得した。

最近の活動としては、フランス・ブリュッヘンと18世紀オーケストラの共演、Ensemble XIXとの演奏及び録音、1826年のグラフを用いてパリのシテ・ド・ラ・ミュージックでのショパン作品のリサイタル、バダレフスキ生誕150周年の記念コンサート及び録音、日本、米国、メキシコ、カナダ、ドイツ、フランス、イギリス、ポーランドでの演奏ツアー等が挙げられる。



「音楽が持つ根源的な力にじかに触れるような衝撃性」 許光俊

チョン・キョンファ 衝撃の東京ライブ第1夜 (1998年4月26日)



シューベルト: ヴァイオリン・ソナタ第4番 長調
「二重奏曲」 D.574 Op.162
シューベルト: 幻想曲 八長調 D.934 Op.159
シューマン: ヴァイオリン・ソナタ第2番 二短調 Op.121
J.S. バッハ: G線上のアリア BWV1068-2
クライスラー: 愛の悲しみ
ホルディーニ (クライスラー編): 踊る人形
ドヴォルザーク: ユモレスク
ドビュッシー (ハイフェッツ編): 美しい夕暮れ

チョン・キョンファ (ヴァイオリン)
イタマル・ゴラン (ピアノ)
ライブ録音: 1998年4月26日、サントリーホール、東京
●KKC 4009/10 (2CD)
●KKC 4009SA (1SACD シングルレイヤー)

※全てオープンプライス
※当 SACD 版は SACD 対応プレーヤー専用ディスクです。

聴衆を金縛りしたシャコンヌ。あのポリ・ニも激賞した衝撃のライブ!

チョン・キョンファ 衝撃の東京ライブ第2夜 (1998年4月28日)



J.S. バッハ: G線上のアリア BWV1068-2
ストラヴィンスキー: 協奏的二重奏曲
J.S. バッハ: 無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番
二短調 BWV1004
バルトーク: ヴァイオリン・ソナタ第2番
ラヴェル: ツィガニーヌ
ラフマニノフ: ヴォカリーズ
クライスラー: 美しいロスマリン
クライスラー: 中国の太鼓
ドビュッシー (ハイフェッツ編): 美しい夕暮れ

チョン・キョンファ (ヴァイオリン)
イタマル・ゴラン (ピアノ)
ライブ録音: 1998年4月28日、サントリーホール、東京
●KKC 4011/12 (2CD)
●KKC 4011SA (1SACD シングルレイヤー)